

MV-22オスプレイの不時着水事案について

1. 事案概要

- (1) 平成28年12月13日（火）21時30分頃、沖縄県名護市東海岸の約1km沖合で米海兵隊普天間基地所属のMV-22オスプレイ1機が不時着水。
- (2) 事故原因は米軍において調査中。
- (3) 搭乗員5名は無事（うち2人は怪我しているものの意識ははっきりしている）。

2. 事故当時の状況（在日米軍司令部及び在沖米海兵隊からの情報）

- (1) 不時着水したMV-22オスプレイは、沖縄東方の海上（約30km沖合）で、米空中給油機KC-130からの空中給油訓練を実施中、プロペラが給油ホースを切断したことにより、プロペラのブレード（羽）が損傷し飛行が不安定になった。
- (2) パイロットの判断により、訓練地点から距離が近いキャンプ・シュワブを目的地として飛行する中で、地元への影響を極小化するため海岸沿いを飛行していたが、途中、辿り着けないと分かったため、パイロットが意図した地点である浅瀬に着水した。
- (3) 事故の原因が機体そのものの問題である可能性は極めて低い。
- (4) MV-22オスプレイについては、安全が確認されるまで飛行を一時停止している。

3. 事案への対応

(1) 防衛省・自衛隊の対応

- ① 活動部隊 空 自 那覇救難隊（那覇）
- ② 活動規模 航空機 2機
- ③ 主な対応状況

【12月13日（火）】

22時28分 防衛大臣指示

- ① 情報収集を徹底し、状況の把握に努めること。
- ② 人命救助に万全を期すこと。
- ③ 地元への説明など、対応を確実にすること。

23時05分 那覇救難隊のU-125×1機が搜索活動のため基地を離陸。

23時17分 那覇救難隊のUH-60×1機が搜索活動のため基地を離陸。

※要救助者は米軍機により収容。

【12月14日（水）】

0時頃～1時頃 沖縄防衛局長がコンウェイ在沖米海兵隊政務外交部長に面談し、事故に係る原因究明・情報提供、安全が確認されるまでの飛行停止について申し入れ。

2時20分～50分 防衛大臣がマルチネス在日米軍司令官へ電話し、事故に係る原因究明・情報提供、安全が確認されるまでの飛行停止について申し入れ。

10時20分～40分 沖縄防衛局長がニコルソン在日米軍沖縄地域調整官と面談。

10時42分～11時23分 防衛大臣がマルチネス在日米軍司令官と電話会談

（米側に「2」の情報を確認）。

【12月15日（木）～16日（金）】

今般の事案を踏まえ、若宮防衛副大臣及び滝沢外務大臣政務官が沖縄県副知事、関係自治体の首長等と面談するため訪沖予定。

(2) 米軍の対応

【12月14日（水）15時～】

◎ニコルソン在日米軍沖縄地域調整官が記者会見し、事故原因等について説明

※事故状況以外の主な発言は以下のとおり。

- ・パイロットがとった咄嗟の判断により、県民や搭乗員を含む多くの人命が救われた。
- ・海上保安庁や沖縄県警による支援に大変感謝。
- ・本件が起きたことは遺憾であり大変残念。遺憾という言葉に謝罪も含まれている。

4. 関係自治体への対応

- (1) 12月13日（火）の深夜から14日（水）の未明にかけて、事案発生第1報について、沖縄県内の25関係自治体等に電話及びFAXで情報提供

※沖縄県、沖縄市、嘉手納町、北谷町、読谷村、うるま市、宜野湾市、浦添市、那覇市、北中城村、名護市、東村、国頭村、本部町、伊江村、宜野座村、恩納村、金武町、久米島町、渡名喜村、北大東村

- (2) また、本土関係自治体についても、オスプレイが飛来する際に情報提供を行っている約160関係自治体等に電話及びFAX等で情報提供

→ 関係自治体からは、事故原因の究明、安全の確保ができるまでの飛行停止等について要望あり。

5. その他米軍情報

12月13日（火）、普天間飛行場において、別のMV-22オスプレイが着陸時に着陸装置（脚部）に不具合が生じる事案が発生したが、これは、通常の安全な着陸だった。なお、本オスプレイは、不時着水したMV-22オスプレイとは関係ない。

MV-22オスプレイ不時着水事案位置図

